

世界の医療を支えるWHOの役割と現在の変化

2026年1月、スイス・ジュネーブのWorld Health Organization (WHO)本部を訪問し、Tedros Adhanom Ghebreyesus事務総長のチームに近い立場にある事務局長補佐らと意見交換を行った。

WHOは、1948年に設立された国連の専門機関で、世界194の国・地域が加盟し、感染症対策や医療の国際基準づくりなどを担う、**世界の健康政策の中核機関**である。

近年は加盟国の**財政問題などにより組織再編が進み**、人員削減や部門統合が行われている。しかしその中でも、世界の医療体制を支える重要な取り組みとして、**UHC(ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ)推進と医療機器情報の整備**が強化されている。



*UHC:すべての人が経済的負担なく必要な医療を受けられる社会を目指す国際目標

UHCナレッジハブとMeDevISが担う新しい国際医療インフラ

WHOでは、医療の格差を縮小するため、各国の政策や技術を共有する仕組みの整備が進んでいる。

UHCナレッジハブ (日本に設置)

日本政府・WHO・世界銀行が連携して設立され、世界各国の保健制度の知識や経験を共有する拠点として機能する。

<https://www.mhlw.go.jp/content/10803000/001294198.pdf>

MeDevIS

世界で初めてWHOが構築した医療機器の国際データベースであり、各国の医療機器情報を統合することで、**安全性・規制・導入を支援する基盤**となる。

<https://who-healthtechnologies.org/>

これらの取り組みは、世界の医療格差を縮小し、UHC実現を支える**新しい国際医療インフラ**として重要性を増している。